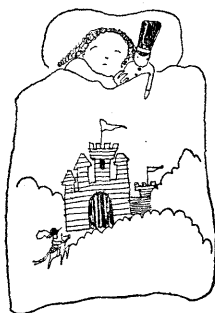


子どもと衣服



子どもが園服を脱ぐ時

宮里 暁美

誰も不思議と思わず、当り前のようにして行なわれたり存在したりしていることは数多くある。そのことにあえてスポットがあたる時、人は、ためらったりうるたえたり深く考えたり、あるいは考えるのをやめたりする。『園服を考える』ということは、まさにそのようなところがあり、思いは行きつ戻りつを繰り返している。従って全く未整理な状態ではあるが、子どもと園服のかかわりの実態をあげ、少

しでも考えを進めてみよう。

私の園の園服は、ベージュ色のスモック風のもので、そこに各自が思い思いの刺しゅうやアップリケをつけてある。超豪華な一面刺しゅうもあれば、アイロンでじゅーっとくっつけた熊さんのアップリケもあるといった具合で様々ではあるが、とにかくお母さんの心がこもっているという点では共通している。どこかにその子らしさが感じとれる楽しい園服

である。

しかし、今、園服と子ども達について思いをめぐらしている、園服を脱ぐ姿が次々に思いおこされてくる。何故子ども達は園服を脱ぐのだろう。その行為の背景・子どもの気持ちは、一様ではない。

登園してすぐ園服を脱ぐKちゃん。Kちゃんにとっては、園服はちよつと肩のこる代物であるらしい。園服を脱ぎいつものシャツ一枚になって、Kちゃんはさつそうと走っていく。

家に帰りがり、保育者のあとを歩いて歩いてきたN君が、園服を脱いだのは、二学期になってからだった。ようやく友だちもできて、一緒にくり返し砂場で遊ぶようになったある日、Nは、ロッカーの前で一人園服を脱ぎ、(これでよし)という顔でひとりうなずき、ダイナマンのふりを一回してから走り去った。Nにとってこのことは、園服を脱ぐという自由を獲得したという点で大きな意味を持つ。

Kにとって園服は、家との違いをきわだたせるものであり、それが圧迫になっている。従って脱ぐことにより、Kは、いつもの自分を取り戻すことができる。

Nにとって園服は、一種の保護膜のようなものに見える。お母さんのおいのする、そして又、幼稚園全体もNを包んでくれているように感じられる。そのNが園服を自ら脱ぐことは、保護膜を破る行為であり、大きさに言えばNの新たな誕生だとも言える。

KやNにとって、園服を脱ぐということは、その行為の形をかりながら、内面的な解決をはかっている行為であった。

ままごとやダイナマンごっこをしている子ども達もよく園服を脱ぐ。

劇ごっこをしていた時のこと、狩人になった子ども達は、双眼鏡を首からぶらさげ腰にピストルをさげだすと、誰言うともなく「園服脱いでこよう」と

いうことになった。

考えてみれば、園服には、幼稚園の子、という意味合いがあるわけだから、お母さんやダイナマンや狩人が園服を着ていたらおかしいことになるのだ。

園服・カバン・帽子、この三つが幼稚園を外側から象徴している。兄について幼稚園への送り迎えに來ていた弟は、入園を待つ一年間同じようなカバンをさげ、帽子や園服を着たがる。そのことにより、弟は、少しかだけ幼稚園を体験した気分になれるのだ。

しかしいざ入園してしまえば、幼稚園は、中味が豊富にひろがっていく。あんなに胸おどらせた幼稚園らしさのかたまりのような園服もカバンも帽子も当り前のものになり、さらには、場合にに応じて不要なものになるのだ。感覚を鋭敏に働かせ遊んでいる子ども達にとっては、何を身にまとうか、ということとは重要な問題なのである。(但し園服を脱いでマントのように羽織れば、スーパーマンになること

ができる。)

子ども達は、ついには裸になる。年長組になってしばらくたったころ、男児が次々に裸になることがある。

かけっこがリレーになり、「よーし」という気合いもろともシャツをぬぎすてるM男、すると相手チームも……といった具合だったり、男同志なんだワッハッハ風のひろがり方をしたりする。

子ども達にとって、裸は気持ちの良いものであると同時に、力を感じさせたり、つながりを感じさせるものであるようだ。

脱いだ園服はどうなるのだろうか、そう考えていた時、次のような情景に出くわした。ある集まりで(子ども連れの母親達の集まり)汗だくだくで遊んだ女の子が、さあ帰るよ、という時になって、スッキリ爽やかなワンピースに着がえた。

電車に乗り遠くまで帰るといことがあってそうしたのだが、気分も少し変わり、服が人に及ぼす作

用に今さらのように気づいた。

勿論、園服を通園途中の服と見なし、登園降園時に着がえを行なわせるやり方には反対である。脱いだり着たりということは、したくてする以外は、なかなか骨の折れる仕事であるのだから。

そうではなく、子ども自身の気持ちから園服を脱ぎ、遊びほうけ、そして帰るその時になって、もう一度園服を着る、ということは、気持ち少し変わる、という意味で必要なことなのかもしれない。

園服という字をつくづく見る。

制服ではない。制服という言葉には、規定の衣服という意味——そろっているということに価値を置いている——が強い。

園服とは、園での遊び着、ととらえるのが近いと思う。園服、どのようであればいいのか、いやその前に、あっていいのか、なくていいのか、どちらでもいいのか、果してどうなのだろう。

やはり最終は疑問符だった。もう少しこの疑問符をかかえていよう。

(文京区立本駒込幼稚園)

